

友達

岐阜市立長良中学校 3年

安藤鈴(あんどう すず)

「友達って何だろう。」

それは一緒にいて楽しい仲間。助け合える仲間。時にはぶつかり合い、共に高め合う仲間。友達の定義は様々で、人それぞれ違うものだと思います。

私たち中学生にとって、悩んだり、考えたりするのも「友達」という人間関係です。私もみなさんと同じように悩んだことがあります。7年間も同じ学年で一緒に過ごしたある一人の子と良好な関係を築くことができず、「今年と同じクラスか。どうしたらいいのだろう。でも、関わらなければいいか。」と半ば諦めていました。そんなある日、授業の中でその子とペアになりました。緊張しながらも勇気を振り絞ってその子に自分の意見を伝えました。すると、その子は「僕も同じ意見だよ。」と言いました。たった一言だったけど、なんだか分かり合えたような気持ちになり、私はとても嬉しくなりました。「ずっと一緒に過ごした仲間。やっぱり、仲良くなりたい。」次の日から、朝出会うたびに「おはよう」と挨拶をしました。始めはぎこちなかったかもしれませんが、挨拶をしているうちに、少しずつ心の距離が縮まっているような気持ちになりました。そうやって過ごしていると、不思議なことに、その子が係の仕事を頑張っていることや、クラスのために動いていることなどが見えてきて、自然と「ありがとう」の言葉も言えるようになってきました。突然の私の変わりように、その子は初め戸惑っているようでした。しかし、徐々に会話が増え、今では笑い合っただけで済ませる大切な仲間の一人となりました。

この出来事は、私に「人との関係は努力が必要だ」ということを教えてくれました。始めの一步を踏み出すのはとても勇気があって、怖かったけど、そこを乗り越えられたからこそ今のいい関係があるのだと思います。もし、あの時諦めていたら、こんな関係にはきっとなれなかったと思います。

私にはかけがえのない親友がいます。その子といると笑顔が絶えなくて、信頼できて、たとえ、意見が合わなくても、「分かり合いたい」と思える大切なかけがえのない友がいます。よく考えると、二人の始まりは、私が悩んだあの子と同じでした。では、なぜこんなにも大切にしたいと思える深い関係を築くことができたのか。私は真剣に考えてみました。その答えは「お互いに相手を尊重する気持ち」の大きさでした。一緒に過ごした時間や回数ではなく、何かあれば自分のことのように考え、助け、支える。相手も、自分と同じように接してくれる。自分のことを思ってくれている気持ちが伝わるからこそ、また相手のために動こうとする。そんな「相手を思う気持ち」が積み重なり、強い絆となっていったのだと思います。

今、世界では、お互いの主張をもとに争いが起きています。私たちの日本も経済制裁という形で、ウクライナを砲撃したロシアに対する抗議を示しています。私も同じ思いです。しかし、本当にその方法でいいのか私は悩みます。「私たち中学生はどんなに大人に叱られようと、自分の主張を変えることはできない」そう思うからです。

今の私に何が出来るか分からないけど、これまでの経験から、「どちらか片方でも歩み寄る努力が必要なこと」「お互いを尊重し合う努力をすること」が大切なことを知っています。私と同じ年の、これから共に世界を担っていく「友」に再び笑顔が戻るよう、どうしても黙っていることはできませんでした。

どうかお願いします。1日も早く誰もが笑顔になれるように、一人一人が隣人に関心を持ち、隣国で行われていることに興味を示し、手を伸ばしていきませんか。

「友達ってなんだろう。」

それは、誰かに与えられるものではなく、自分たちで築き上げていくもの。その根底にある思いはどんな立場であらうと決して変わらないのです。